



CGI-Park 名人シリーズ

解析名人 システム管理者マニュアル Ver1.0



本マニュアルの対象商品

解析名人 Ver 1.0.0

目次

1. はじめに
 - 1- 1. 本ソフトの概要を主な特徴
 - 1- 2. CGIの動作環境
 - 1- 3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント
2. 初期設定
 - 2- 1. ログファイルの拡張子の設定
 - 2- 2. Perlのパスの設定
 - 2- 3. 複数の製品を組み合わせて利用する場合の設定
3. サーバへのセットアップ
 - 3- 1. サーバへのアップロード
 - 3- 2. パーMISSIONの設定
 - 3- 3. セットアップ開始
 - 3- 4. セットアップ完了
4. 管理画面の設定
 - 4- 1. 試用開始
 - 4- 2. システム管理者パスワードの設定
 - 4- 3. 環境設定
 - 4- 4. フォルダ位置の設定
 - 4- 5. 管理者アカウントの設定
5. 解析タグの埋め込み
 - 5- 1. ログ収集用JavaScriptの作成
 - 5- 2. ホームページへのタグの埋め込み
6. その他の技術情報
 - 6- 1. 管理画面へのログイン履歴
 - 6- 2. 管理メニューの設定
 - 6- 3. 本ソフトのライセンス情報について
 - 6- 4. システムのアップデート
 - 6- 5. システムの再構築

1. はじめに

1-1. 本ソフトの概要を主な特徴

長期間解析可能なホームページアクセス解析

本ソフトはホームページにアクセスしてきたユーザーを長期間に渡りさまざまな角度から分析することが出来るCGIプログラムです。

たとえば、ホームページへの一日のアクセス数であったり、どのような検索キーワードでアクセスしてきているのか、どのページを見て回ったのかをカラフルに色分けされたグラフで一目でわかるように表示します。

主な特徴

- 1. ホームページへの一日のアクセス数や訪問者の動きが見えてくる**
ホームページにアクセス解析を設置したとき、毎日確認したい情報は「今日はどれだけのアクセスがあったか」「今日はどのページのアクセスが多かったのか」といった一日のアクセスの動向が気になるころだと思えます。
本ソフトでは、管理画面にアクセスすると最初に日別のアクセス数がグラフで表示され、前日とのアクセス数の比較が容易に行なえるように設計されています。
- 2. ページ別のアクセス数ランキングで、人気のコンテンツがわかる**
サイト内の各ページ毎のアクセス数をランキング表示します。
サイト内のどのページが人気があるのかが一目で確認できます。解析期間も日別や月別と、らように細かく期間を設定して解析できます。
- 3. 検索エンジンからの訪問の場合、どのような検索キーワードでたどり着いたかが分かる**
Yahoo!やGoogleといった検索エンジンからアクセスしてきた場合、どのような検索キーワードを使ってアクセスしたのかを解析し、検索キーワードの出現頻度の多い順からランキング表示されます。
- 4. 訪問者のアクセス元の都道府県や利用しているブラウザ等が分かる**
サイトに訪問して来たユーザーがどのブラウザを利用してアクセスして来ているのか、モニタの解像度はどのような設定になっているのか確認できます。また、アクセス元の都道府県も確認できます。
- 5. 長期間アクセスログを取り続けてもログの容量は最小限に押さえられる**
解析名人はアクセスログを独自の方式で収集しているため、長期間の解析を行ってもログの容量を少なく押さえることが出来ます。
そのため、月別のアクセス数を比較したり、年別での比較を行なうことも容易に行なえます。

1. はじめに

1-2. CGIの動作環境

本CGIは下記の条件を満たしているWEBサーバにおいて動作するように設計されています。

ただし、下記の条件を満たしている場合でも必ず動作するわけではありませんので、本ソフトを購入する前に必ずWEBサーバでの動作確認を行なってください。

【動作環境】

- ✗ サーバのOSがUNIX系のOSであること
- ✗ Perl 5.00503 以上がインストールされていること
- ✗ Sendmailが利用できること
- ✗ Perlモジュール「Jcode.pm」が利用できること(オプション)
Jcode.pmが利用できない場合でも本ソフトは動作しますが、GoogleやMSNサーチ等の検索エンジンからアクセスしてきたユーザーの検索キーワードを取得することが出来なくなります。

1. はじめに

1-3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント

※ 本ソフトは以下のファイルで構成されています。

フォルダ	ファイル	説明
kaiseki1_0_0		解凍後に出来上がるフォルダ。後ろの数字はバージョンを表しています。(1_0_0 Ver 1.0.0)
kaiseki		本ソフトのフォルダ
cgi		各種CGIプログラムの格納フォルダ
conf.pl		システム基本情報の定義ファイル
folder.pl		フォルダ情報の定義ファイル
setup.cgi		システムセットアップ用プログラム
image		各種イメージファイル、スタイルシートを格納
*.gif, *.jpg		管理画面で利用している各種イメージファイル
font.css		フォント設定を記述したスタイルシート
style.css		テーブルやセルのデザインを記述したスタイルシート
window.js		管理画面で用いる各種JavaScript
log		ログファイル格納フォルダ
agent		エージェントログ格納フォルダ
monitor		モニタログ格納フォルダ
page		ページ別アクセスログ格納フォルダ
request		訪問者ログ格納フォルダ
conf.log		環境設定定義ファイル
index.htm		ダミーHTMLファイル
meijin.log		システム基本情報定義ファイル
menu.log		管理メニュー定義ファイル
system.log		システム構成定義ファイル
index.html		管理画面アクセス用ページ
setup.html		セットアップ開始ページ
ドキュメント		本ソフトの付属ドキュメントを格納
ソフトウェア使用許可契約書.txt		ソフトウェア使用許可契約書 (必ずお読みください)
システム管理者マニュアル.pdf		システム管理者用マニュアル
ホームページ管理者マニュアル.pdf		ホームページ管理者用マニュアル

2. 初期設定

2-1. ログファイルの拡張子の設定

ログファイルの拡張子の設定について

システムのセットアップを行なう前に、ログファイルの拡張子の設定を行なう必要があります。デフォルトの拡張子は「log」となっています。

ログファイルの保存フォルダをWEB公開領域（ブラウザからアクセスすることが出来るフォルダ）に置く場合は拡張子を必ず「cgi」等の実行形式の拡張子に変更してください。「log」のままにしておくと、ブラウザから直接ログファイルにアクセスされた際、ログファイルの中身が表示されてしまい、大切な個人情報等が漏洩してしまう可能性があります。

✎ ログファイルの拡張子を変更する

「kaiseki¥cgi¥conf.pl」というファイルをテキストエディタで開いてください。

```
13行 $log_ext = log ;
```

と記述された箇所があります。この「log」の部分を変更したい拡張子に書き換えてください。

ただし [html] [db] [mail] を使用することは出来ません。

実行形式の拡張子にしたい場合は [cgi] にすることをおすすめします。

[cgi] にすると、たとえブラウザから直接そのログファイルにアクセスして来た場合でも、「Internal Server Error」となり、ファイルを開くことは出来ません。

2. 初期設定

2-2. Perlのパスの設定

Perlのパスについて

WEBサーバ上のどこにPerl処理系があるかを示すもので、設置するサーバの環境に合わせてPerlの実行ファイルに記述する必要があります。
不明な場合は、サーバにTelnetでアクセスし

```
% which perl
```

と入力してみてください。画面にPerlのパスが表示されるはずですが、通常Perlのパスは「usr/bin/perl」または「usr/local/bin/perl」のどちらかになると思います。
本ソフトではデフォルトで「usr/bin/perl」として扱います。お使いのサーバと異なる場合は下記を参考にして必ず書き換えてください。

✎ Perlのパスを書き換える

「kaiseki¥cgi¥setup.cgi」というファイルをテキストエディタで開きます。1行目に

```
#!/usr/bin/perl
```

と記述されています。これを設置するサーバの環境に合わせて書き換えてください。

通常は以下のいずれかになると思います。

```
#!/usr/local/bin/perl
```

```
#!/usr/bin/perl
```

```
#!/bin/perl
```

2. 初期設定

2-3. 複数の製品を組み合わせて利用する場合の設定

✂ 複数の商品を組み合わせて利用する

当社の製品を複数ご利用いただく場合、商品ごとに別々にログインしたり それぞれに管理者アカウントを作成しては作業効率が悪くなります。

そこで、当社製品を複数まとめて利用する場合、一つのWEB管理画面としてまとめて利用することが出来るようになっていきます。

✂ 設定方法

すべての商品で共有する情報は、管理者アカウント情報とログイン履歴情報、ログインクッキーの保存名です。

この3つを同一の設定にすることで、管理画面を一つにまとめることが出来るのです。

まず、管理者アカウント情報とログイン履歴情報の保存先を統一させます。

そこで、この2つのファイルを保存するための共通のフォルダを作成してください。例では下記の場所にフォルダを作成したと仮定します。

/web/cgi-bin/kaiseki/cgi/admin.cgi	管理画面CGIの位置
/web/cgi-bin/kaiseki/log	共有ログファイルの既定値
/cgi-data/common	新しく作成した共有フォルダ

「kaiseki¥cgi¥folder.pl」をテキストエディタで開いてください。

```
23行   ### ログファイル共有フォルダ
24行   $CoLogDir = "";
```

という箇所があると思います。ここで先ほど作成した共通のログファイル保存フォルダの位置を指定します。

```
23行   ### ログファイル共有フォルダ
24行   $CoLogDir = "../../../cgi-data/common";
```

以上で管理者アカウント情報とログイン履歴情報の共有化作業が完了しました。

続いて、ログインクッキーの名前を統一させます。デフォルトの状態では、すでに統一されているので特に修正する必要はありませんが、状況に応じて修正したい場合は、下記の要領で行ってください。

「kaiseki¥cgi¥conf.pl」をテキストエディタで開きます。

```
22行   $cookie_name = 'meijin';
```

という箇所がありますので、「meijin」という部分を変更したいクッキー名に書き換えてください。変更した名前はすべての商品にも反映させる必要があります。

以上で、共有化の設定が完了です。

3. サーバへのセットアップ

3-1. サーバへのアップロード

システムの初期設定が完了したら、いよいよセットアップ作業を開始します。まず、「kaiseki」フォルダ以降をすべてFTPでサーバにアップロードします。（「ドキュメント」フォルダはアップロードする必要はありません。）ちなみに、「kaiseki」というフォルダ名は、好きな名前に変更することが出来ます。必要に応じて変更してください。

例では、下記のようにcgi-binフォルダ以降にアップロードすると仮定します。

web	WEB公開フォルダ
cgi-bin	CGIファイル格納フォルダ
kaiseki	本ソフトのアップロード先
cgi	
image	
log	
index.html	
setup.html	

3. サーバへのセットアップ

3-2. パーミッションの設定

本ソフトをサーバにアップロードしたら、お使いのサーバに合わせてパーミッションを変更してください。CGIの動作権限がowner権限かother権限かでパーミッションの設定方法が異なる場合があります。

フォルダ	ファイル	Owner権限	Other権限
cgi-bin			
kaiseki		変更不要	707
cgi		変更不要	707
conf.pl		変更不要	606
folder.pl		変更不要	606
setup.cgi		705	705
image		変更不要	707
*.gif, *.jpg		変更不要	604
font.css		変更不要	604
style.css		変更不要	604
window.js		変更不要	604
log		変更不要	707
agent		変更不要	707
monitor		変更不要	707
page		変更不要	707
request		変更不要	707
conf.log		変更不要	606
index.htm		変更不要	変更不要
meijin.log		変更不要	606
menu.log		変更不要	606
system.log		変更不要	606
index.html		変更不要	変更不要
setup.html		変更不要	変更不要

3. サーバへのセットアップ

3-3. セットアップ開始

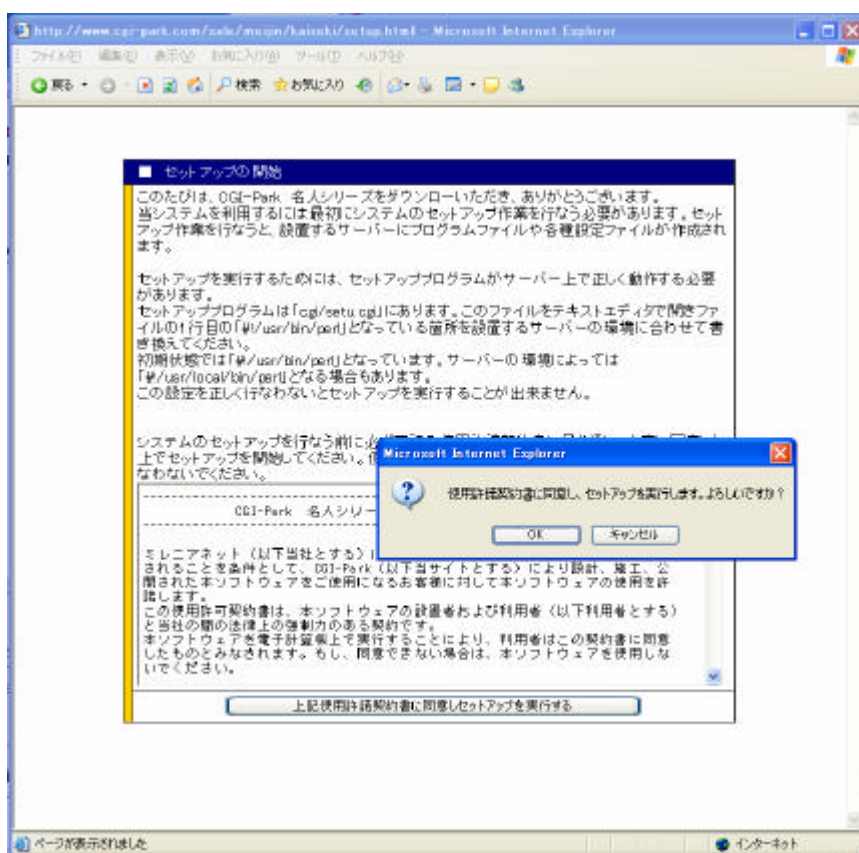
✖ セットアップ開始画面へアクセス

サーバへファイルをすべてアップロードしたら、セットアップ開始ページ「setup.html」にアクセスします。

たとえば、設置するサイトのURLが「www.cgi-sample.com」で、サーバへのアップロード先が「/cgi-bin/kaiseki/」とすると、セットアップの開始画面は

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/kaiseki/setup.html>

になります。このページをブラウザでアクセスすると、下記の画面が現れます。



セットアップ開始画面

✖ セットアップ開始

セットアップ開始画面では、本ソフトの「ソフトウェア 使用許可契約書」が表示されています。

必ず、契約書の内容に目を通し、同意した上でセットアップを開始してください。契約書内容に同意できない場合は、決してセットアップを行わないでください。

【セットアップエラー】

セットアップ開始ボタンをクリックした後、真っ白な画面にエラーメッセージが表示された場合は、何らかの原因によりセットアップが正常に行なわれなかった可能性があります。その場合、本マニュアルを参考にし、再度正しくアップロードされているかご確認ください。

3. サーバへのセットアップ

3-4. セットアップ完了

セットアップが完了すると、システムに必要なプログラムファイルや設定ファイルが作成されます。

マークが付いている箇所がセットアップ後に作成されたファイルやフォルダとなります。

フォルダ	ファイル	説明
kaiseki		本ソフトのフォルダ
cgi		各種CGIプログラムの格納フォルダ
	admin.cgi	管理画面メインプログラム
	conf.pl	システム基本情報の定義ファイル
	folder.pl	フォルダ情報の定義ファイル
	logging.cgi	ログ収集用CGIプログラム
data		データファイル格納フォルダ
html		システムHTMLファイル格納フォルダ
image		各種イメージファイル、スタイルシートを格納
lib		CGIライブラリ格納フォルダ
log		ログファイル格納フォルダ
index.html		管理画面トップページ

セットアップが完了すると、セットアップ用CGIプログラムがなくなり、代わりに管理画面用メインプログラム等が新たに作成されます。

セットアップの開始画面が

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/kaiseki/setup.html>

の場合、**管理画面のトップ**は

<http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/kaiseki/index.html>

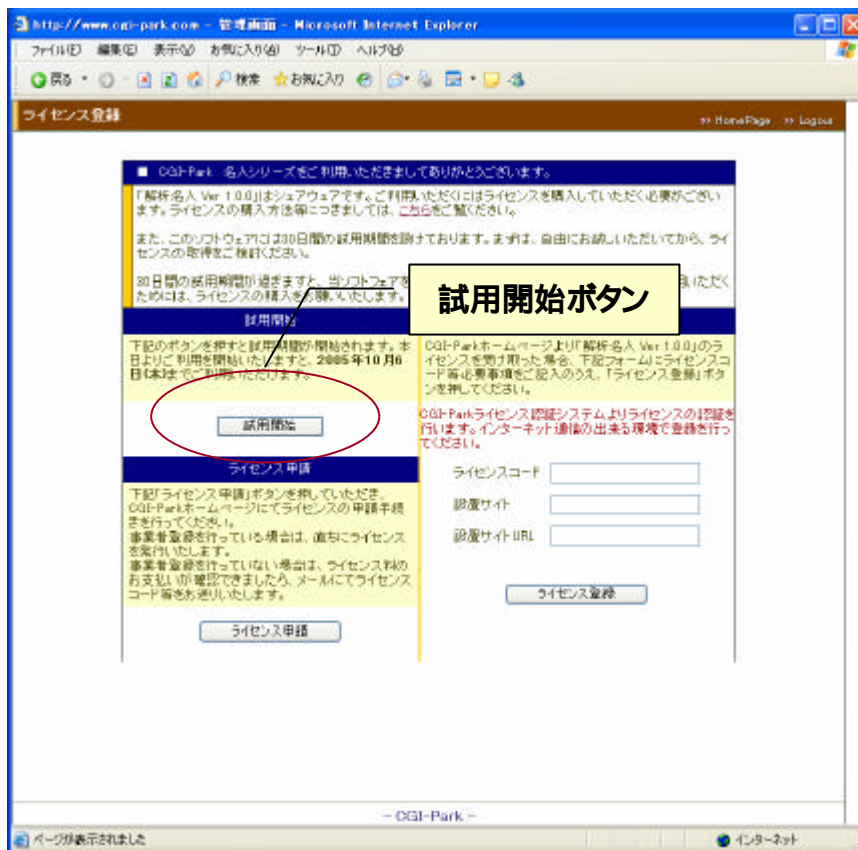
となります。今後、本ソフトの管理画面にアクセスする際は、上記URLにアクセスしてください。

また、このページをお気に入りに登録しておくことをおすすめします。

4. 管理画面の設定

4-1. 試用開始

☞ セットアップが無事完了すると下記の画面が現れます。



本ソフトは30日間の試用期間が設けられていますので、ライセンスの購入を行なう前に試用してみたい場合は、「試用開始」ボタンをクリックしてください。30日間の試用期間が与えられ、自由に操作できるようになります。

4. 管理画面の設定

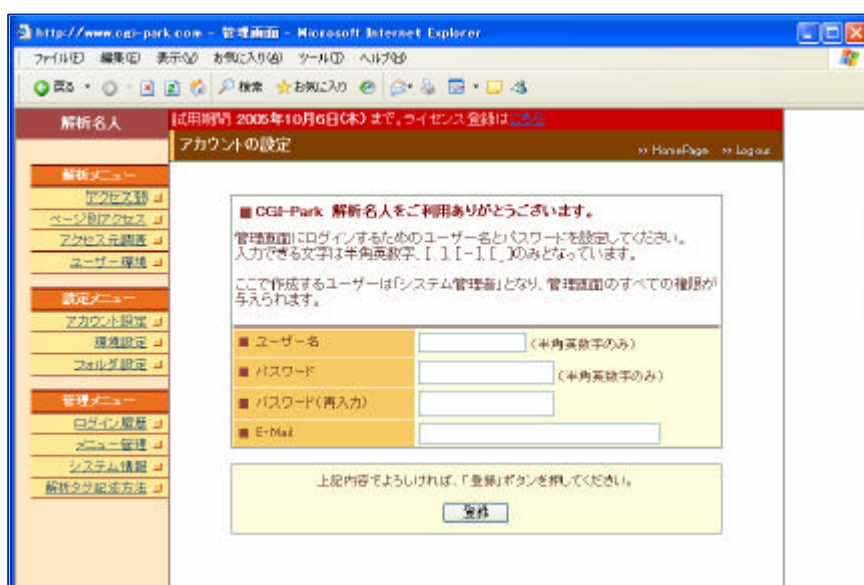
4-2. システム管理者パスワードの設定

✎ システム管理者のパスワードを設定する

管理画面に最初にアクセスすると、下記のような管理者アカウントの作成画面が現れます。

本ソフトでは管理者権限を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の2つの権限の管理者アカウントを作成することができます。

まず最初にすべての管理権限が与えられるシステム管理者のアカウントを作成します。



システム管理者アカウントの作成画面

ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。

システム管理者のパスワードを紛失して、管理画面にアクセスできなくなると、パスワードの再発行を行なえなくなりますので、十分にご注意ください。

(HP管理者のパスワードは、システム管理者が再発行することが出来ます)

E-mail

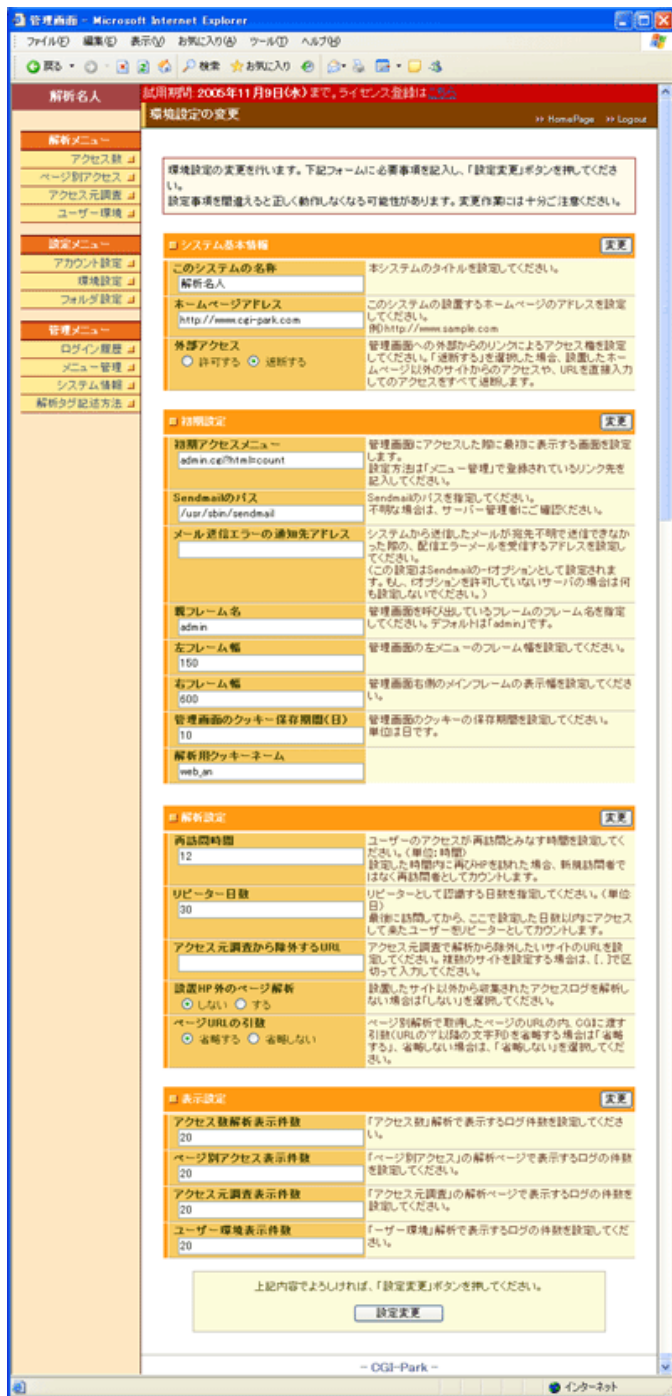
管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。

管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

4. 管理画面の設定

4-3. 環境設定 (1/3)

システム管理者の登録が完了すると「環境設定」画面に切り替わります。環境設定では、管理画面の動作設定やログ解析の方法等の設定が行なわれます。



環境設定画面

【システム基本情報】

このシステムの名称
この管理画面の名称を入力してください。ここで設定された名称は管理画面の左上に表示されます。

ホームページアドレス
本ソフトを設置したホームページのURLを入力してください。管理画面へ不正にアクセスされた場合、ここで設定されたアドレスにジャンプされます。

外部アクセス
「外部アクセスを遮断する」に設定した場合、正規のログインページ以外からのアクセスをブロックし管理画面への不正なアクセスを遮断することが出来ます。例えば、左側の管理メニューのリンク先をコピーし、リンク先のURLに含まれる管理画面に渡す引数を故意に変更してアクセスしてきた場合でも、その引数をシステムに渡す前にブロックすることが出来ます。

マッキントッシュの一部のブラウザからアクセスした際、正しくアクセスしているのに、稀に外部アクセスとみなされて遮断してしまう場合があります。その場合、許可する」にチェックを付け、この機能をオフにしてください。

4-3. 環境設定 (2/3)

【初期設定】

✖ 初期アクセスメニュー

管理画面にアクセスした際に最初に表示する画面を設定してください。設定方法は「メニュー管理」で登録されているリンク先を記入してください。初期設定では「日別アクセス」が最初の画面になるように設定されています。

✖ Sendmailのパス

サーバのSendmailまでのパスを指定してください。通常は「usr/sbin/sendmail」か「usr/lib/sendmail」が一般的です。不明な場合は、サーバー管理者にご確認ください。

✖ メール送信エラーの通知先アドレス

システムから送信したメールが宛先不明で送信できなかった際の、配信エラーメールを受信するアドレスを設定してください。

(この設定はSendmailの-fオプションとして設定されます。もしfオプションを許可していないサーバの場合は何も設定しないでください。)

✖ 親フレーム名

管理画面を呼び出しているフレームのフレーム名を指定してください。デフォルトは「admin」です。

管理画面メインプログラム「admin.cgi」を呼び出す際のフレームページ(index.html)のフレーム名になります。

✖ 左フレーム幅

管理画面の左メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは150ピクセルになっています。

✖ 右フレーム幅

管理画面の右メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは600ピクセルになっています。

✖ 管理画面のクッキー保存期間(日)

管理画面のクッキーの保存期間を設定してください。単位は日です。

デフォルトでは10日間となっています。この日数より間を空けてアクセスすると再度ログインを求められます。

✖ 解析用クッキーネーム

ホームページの訪問者にセットするクッキーで、新規訪問か、際訪問かの判断等に利用されています。

解析用のタグを設置したページにアクセスした訪問者には毎回クッキーが読み書きされます。ただし、個人を特定できるような情報は一切収集していません。

ホームページ内でクッキーの利用に関するプライバシーポリシーを載せている場合は、本ソフトでもクッキーを利用しているとい旨をご記入ください。

4. 管理画面の設定

4-3. 環境設定 (3/3)

【解析設定】

- ✖ **再訪問時間**
ユーザーのアクセスが再訪問とみなす時間を設定してください。(単位: 時間)
設定した時間内に再びHPを訪れた場合、新規訪問者ではなく再訪問者としてカウントします。
- ✖ **リピーター日数**
リピーターとして認識する日数を指定してください。(単位: 日)
最後に訪問してから、ここで設定した日数以内にアクセスして来たユーザーをリピーターとしてカウントします。
- ✖ **アクセス元調査から除外するURL**
アクセス元調査で解析から除外したいサイトのURLを設定してください。複数のサイトを設定する場合は、[,]で区切って入力してください。
- ✖ **設置HP外のページ解析**
設置したサイト以外から収集されたアクセスログを解析しない場合は「しない」を選択してください。
- ✖ **ページURLの引数**
ページ別解析で取得したページのURLの内、CGIに渡す引数 (URLの '?'以降の文字列) を省略する場合は「省略する」、省略しない場合は、「省略しない」を選択してください。

【表示設定】

- ✖ **アクセス数解析表示件数**
「アクセス数」解析で表示するログ件数を設定してください。
- ✖ **ページ別アクセス表示件数**
「ページ別アクセス」の解析ページで表示するログの件数を設定してください。
- ✖ **アクセス元調査表示件数**
「アクセス元調査」の解析ページで表示するログの件数を設定してください。
- ✖ **ユーザー環境表示件数**
「ユーザー環境」解析で表示するログの件数を設定してください。

4. 管理画面の設定

4-4. フォルダ位置の設定 (1/2)

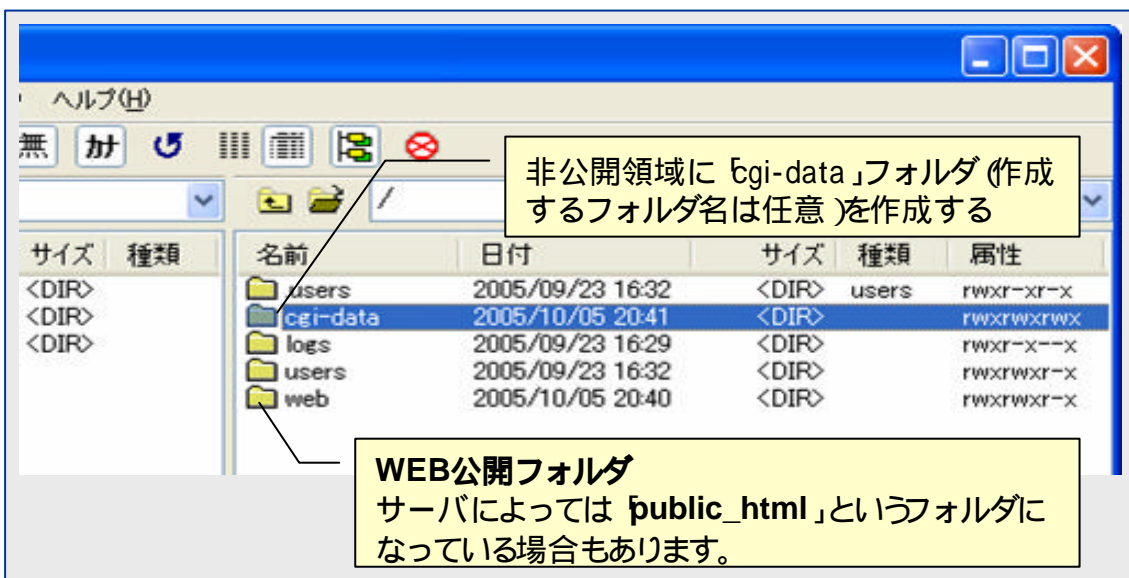
等製品をセットアップした最初状態では、ログファイルの格納フォルダなどがブラウザから直接アクセスすることの出来る「WEB公開領域」におかれています。そのままにしておくと悪意のある第三者から不正にアクセスされ、ログファイルの中身を盗み見られてしまう可能性が出てきます。

そのような危険な状態を回避するためにも、セットアップ後は必ずフォルダの移動を行なう必要があります。

下記の例を参考にログファイル格納フォルダを適切な位置に移動してください。

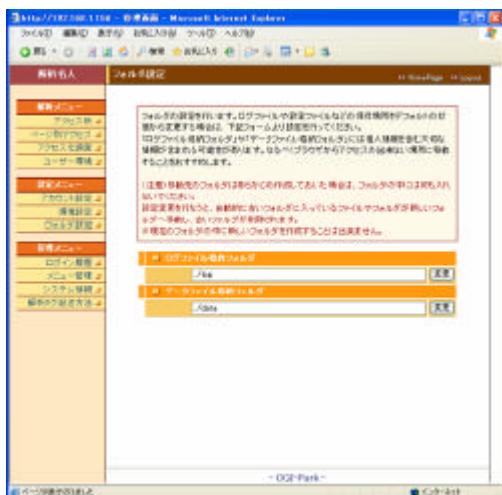
1. 非公開フォルダの作成

まず、「web」フォルダをWEB公開フォルダと仮定するとそれと同じ階層に「cgi-data」フォルダ(フォルダ名は任意)をFTPソフト等を使って作成します。



2. 管理画面での操作

管理画面の左側のメニューより「フォルダ設定」をクリックする。



本ソフトでは下記のフォルダが設定可能フォルダとなっています。

【ログファイル格納フォルダ】

システムが生成したログファイルや設定ファイルが格納されています。

【データファイル格納フォルダ】

システムで使用する各種設定ファイル等が格納されています。

4. 管理画面の設定

4-4. フォルダ位置の設定 (2/2)

本ソフトを設置したフォルダが「web/cgi-bin/kaiseki/」フォルダとすると、管理画面のメインCGIファイルは「web/cgi-bin/kaiseki/cgi/admin.cgi」にあり、ここから見た、新しいフォルダまでの相対パスを指定して、「変更」ボタンを押すことで、フォルダとその中に格納されているファイルが移動します。

先ほど「cgi-data」フォルダを作成したので、そこに「ログファイル格納フォルダ」を移動する場合、移動先のフォルダ名を「kaiseki_log」とすると

移動前の位置 [/web/cgi-data/kaiseki/log]

移動後の位置 [/cgi-dta/kaiseki_log/]

という移動を行なうので、新しいフォルダまでのパスは

[../../../../cgi-data/kaiseki_log]

となります。

変更処理が正常に完了すると、変更前のログファイル格納フォルダ「web/cgi-bin/kaiseki/log/」がなくなり、その中に入っていたフォルダやファイルはすべて「cgi-data/kaiseki_log/」の中に移動します。

(注意事項)

移動先のフォルダはあらかじめ作成しておいた場合 (kaiseki_logフォルダをあらかじめ作っておいた場合) は、フォルダの中には何も入れないでください。万が一ファイル等が入っていた場合は、エラーとなり移動処理が行なえません。

・上記例の場合、[kaiseki_log]フォルダは作成しておく必要はありませんが、[cgi-data]フォルダは事前に作成しておく必要があります。移動先のフォルダがない場合は移動処理が行なえません。

現在のフォルダの中に新しいフォルダを作成して、そこに移動することは出来ません。

例) 移動前 /web/cgi-bin/kaiseki/log/

移動後 /web/cgi-bin/kaiseki/log/new_log/

4. 管理画面の設定

4-5. 管理者アカウントの設定 (1/2)

管理者アカウントについて

本ソフトでは、管理画面にアクセスする管理者を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の二つの管理権限に分けて、管理しています。

システム管理者

本ソフトを設置した方や、管理画面全般を管理する方で、本ソフトを実際に利用することが出来るように、設置するホームページに合わせた調整を行ったり、製品のバージョンアップを行ったりと、管理画面に対してすべてのアクセス権限を持っている管理者です。

ホームページ管理者

本ソフトを設置した後に実際に管理画面を利用する方で、管理者アカウントの作成や、フォルダの移動といった設定作業を行わず、通常の業務のみを行なう管理者となります。

ホームページ管理者には一部の管理メニューのみが表示され、設定関係のメニューは表示されなくなり、すっきりとした管理画面になります。



システム管理者の管理画面



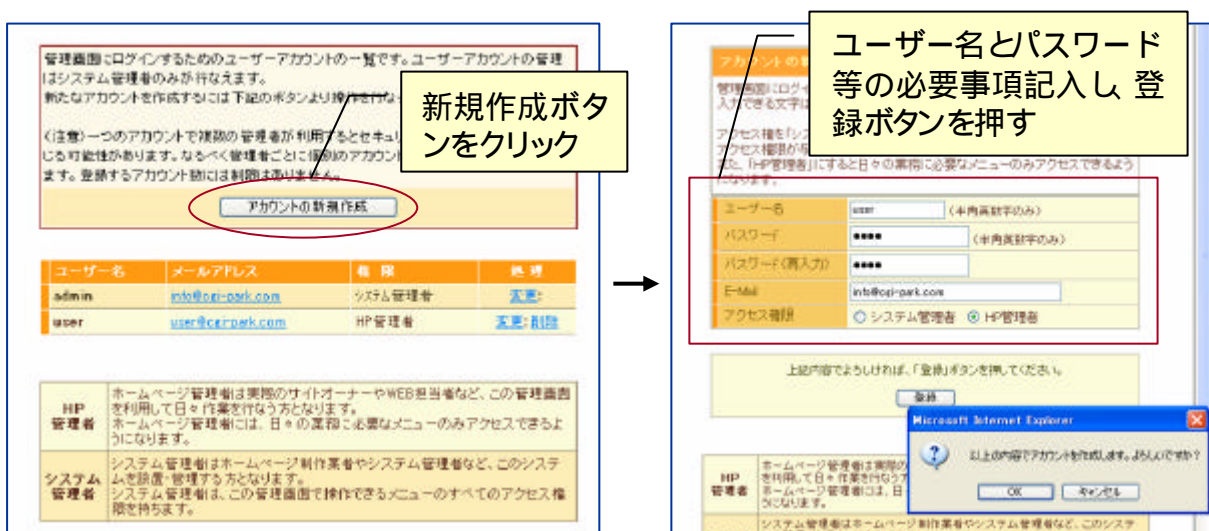
ホームページ管理者の管理画面

4. 管理画面の設定

4-5. 管理者アカウントの設定 (2/2)

管理者アカウントを作成する
 管理者アカウントの新規作成を行なうことができるのは、「システム管理者」のみとなります。もし、「ホームページ管理者」でログインしている場合は、システム管理者としてログインしなおしてください。

まず、管理メニューより「アカウント設定」をクリックしてください。
 管理画面に登録されている管理者アカウントの一覧が表示されます。
 新たに管理者アカウントを追加する場合は、「アカウントの新規作成」ボタンをクリックしてください。
 管理者アカウントの登録フォームが現れるので、必要事項を記入して、「登録」ボタンを押してください。
 これで、新しい管理者アカウントの登録が完了です。



ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。

E-mail

管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

アクセス権限

「システム管理者」または、「HP管理者」のどちらの権限でアカウントを作成するか選択してください。

5. 解析タグの埋め込み

5-1. ログ収集用JavaScriptの作成

解析ログを収集するためには、解析を行いたいHTMLファイルすべてに下記のようなJavaScriptをページ内に埋め込む必要があります。

下記のJavaScriptのうち、赤色になっている箇所が設置した状況に合わせて書き換える必要がある部分です。
ここは、サーバのルートディレクトリから見た、ログ収集用CGIプログラムまでのパスとなっています。

例では、`http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/kaiseki/cgi/loging.cgi`がログ収集用CGIプログラムのURLとなるため、ルートディレクトリからのパスは`/cgi-bin/kaiseki/cgi/loging.cgi`となります。

```
<SCRIPT Language="JavaScript">
<!--
document.write("<img src='/cgi-bin/kaiseki/cgi/loging.cgi?'");
document.write("referrer="+document.referrer+"&");
document.write("width="+screen.width+"&");
document.write("height="+screen.height+"&");
document.write("color="+screen.colorDepth+">");
// -->
</SCRIPT>
```

5-2. ホームページへのタグの埋め込み

埋め込むJavaScriptが完成したら、解析を行いたいHTMLファイルすべてに埋め込んでください。

埋め込む箇所はBODYタグの中でしたら、どこでも大丈夫です。

ただし、このJavaScriptが読み込まれると、1×1ピクセルの透過GIFファイルが呼び出されますので、この画像が呼び出されてもデザインを崩さない場所に埋め込むことをおすすめします。

より正確にログ解析を行うためにも、なるべくすべてのページに上記JavaScriptを埋め込むことをおすすめします。

6. その他の技術情報

6-1. 管理画面へのログイン履歴

☞ 管理画面へのアクセス履歴を確認する

本ソフトでは、管理画面へのアクセス履歴をすべて保存しています。記録する項目は、「アクセス履歴」「ログイン履歴」「ログアウト履歴」で、すべての項目に対して、「日時」「ログインユーザー名」「アクセス元ホスト情報」などが記録されます。

☞ アクセス履歴

管理画面へ一度ログインするとデフォルトでは、10日間クッキーが保存され、ログインを行わなくても、管理画面にアクセスできるようになります。

そのようにクッキーを利用してログインした管理者の履歴を、前回のアクセス日時から6時間以上経過した場合、新たなアクセスとして記録されます。

☞ ログイン履歴

管理画面にユーザー名とパスワードを使ってログインした場合、ログイン履歴として記録されます。

ログイン履歴は、どのユーザーがログインしたか、また、ログインは成功したか失敗したかが記録されます。

たとえば、登録されていないユーザー名で何度もログインを行なって失敗している形跡があると、悪意のある第三者が不正にログインを行なおうとしている痕跡がもしもありません。

☞ ログアウト履歴

管理画面からログアウトを行なった、ユーザーと日時、ホスト名が記録されます。

日時	ユーザー名	ステータス	ホスト名
2008-09-17 20:18:08	admin	ログイン成功	MILLENIA-SGI
2008-05-21 00:21:11	admin	ログイン成功	MILLENIA-SGI
2008-05-21 00:21:08	zada	ログイン失敗	MILLENIA-SGI
2008-05-02 20:07:58	admin	ログイン成功	MILLENIA-SGI

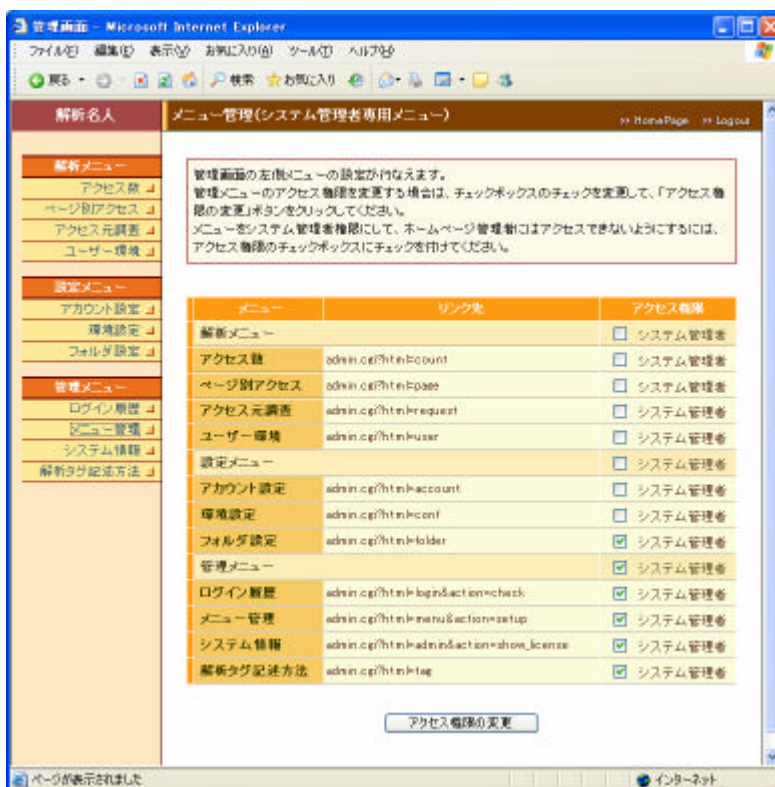
ログイン履歴照会画面

6-2. 管理メニューの設定

管理画面のメニューアクセス権限を設定する

管理画面の左側メニューのアクセス権限設定が行なえます。システム管理者向けのメニューなのか、ホームページ管理者向けのメニューなのかを切り替えます。通常は特に変更する必要はありませんが、システム管理者向けのメニューをホームページ管理者でもアクセスできるようにしたり、逆にホームページ管理者向けのメニューをシステム管理者専用のメニューに変更したりする際に、ここで設定を行ないます。

管理メニューのアクセス権限を変更する場合は、チェックボックスのチェックを変更して、「アクセス権限の変更」ボタンをクリックしてください。メニューをシステム管理者権限にして、ホームページ管理者にはアクセスできないようにするには、アクセス権限のチェックボックスにチェックを付けてください。



メニュー設定画面

6. その他の技術情報

6-3. 本ソフトのライセンス情報について

管理メニューの「システム情報」を選択すると、本ソフトに登録しているライセンス情報や商品のバージョン情報が確認できます。
 また、CGI-Parkの商品データベースにアクセスし、最新のアップデートファイルが公開されていないか、確認します。もし、最新のアップデートファイルが公開されていれば、アップデート情報の欄に「最新のアップデートファイルが公開されています」といったメッセージが表示され、アップデートファイルが公開されているページのリンクが表示されます。

The screenshot shows a web interface with the following sections:

- アップデート情報 (Update Information):** A yellow box with the text "最新のアップデートファイルが公開されています" (The latest update file is published).
- バージョン情報 (Version Information):** A table with the following data:

■ バージョン情報	解析名人 Ver 1.0.0
■ ライセンスコード	LS011128-6377-0001
■ 設置サイト	CGI-Park
■ 設置サイトURL	http://www.cgi-park.com
■ テストサーバー	
■ 登録日時	2005年08月25日(木)
- メンテナンス (Maintenance):** A table with the following data:

■ アップデート	システムのアップデートを行ないます。	>> GO
■ システム再構築	システムファイルを再構築します。	>> GO
■ 作業履歴	システムのアップデートや再構築の作業履歴が確認できます。	>> GO

Callouts from the image:

- Top callout: "最新のアップデートファイルが公開されていればここにメッセージが表示されます。" (If the latest update file is published, a message will be displayed here.)
- Right callout: "本ソフトのバージョン情報や、登録したライセンス情報が表示されます。" (The version information of this software and the registered license information will be displayed.)

システム情報

6-4. システムのアップデート (1/2)

☞ アップデートについて

CGI-Parkのホームページより最新版のアップデートファイルを手に入れたら、管理メニューの「システム情報」よりアップデート作業を行なうことができます。アップデートファイルは、必ず現在利用している製品のバージョンに対応したものを入手してください。

アップデートファイルが複数公開されている場合は、一番古いものから順に当てていってください。順番を間違えると正しくアップデートが行われません。

☞ アップデートファイルの種類

アップデートファイルには2種類あり、一つはプログラムファイルや設定ファイルを新しいものにおきかえるというもので、もう一つは実行ファイルが含まれており、アップデートを実行するとプログラムが起動し、システム内の情報を書き換えるタイプのものです。アップデートファイル内に「exe.pl」が含まれている場合は、後者の実行ファイル入りのアップデートファイルとなります。

☞ 注意事項

・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、アップデートを行なうことで、改造を施したファイルが最新のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。
独自に改造を行なっている場合は、アップデートは行わないでください。

・アップデート処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてからアップデートを行なうことをおすすめします。
万が一アップデートによりシステムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、アップデートを実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

6-4. システムのアップデート (2/2)

🔗 アップデートの開始

1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、「アップデート」という項目のボタンをクリックします。
2. 「参照」ボタンをクリックし、CGI-Parkホームページより入手したアップデートファイル(拡張子が.cpmとなっているファイル)を選択し、「開く」ボタンを押してください。(図1)
3. ファイルを選択したら「確認」ボタンをクリックしてください。誤ったアップデートファイルを選択したら、エラーメッセージが表示されます。正しいファイルを選択しなおしてください。
正しいアップデートファイルを選択したら、アップデート内容の説明や、更新対象のファイル等の情報が確認できます。(図2)
4. アップデート情報を確認し、内容に問題がなければ「アップデート実行」ボタンを押してください。アップデートが実行され、システムの更新が開始されます。
5. アップデート処理が終了すると、アップデートの完了画面が表示されます。これでアップデート処理は正常に終了しました。

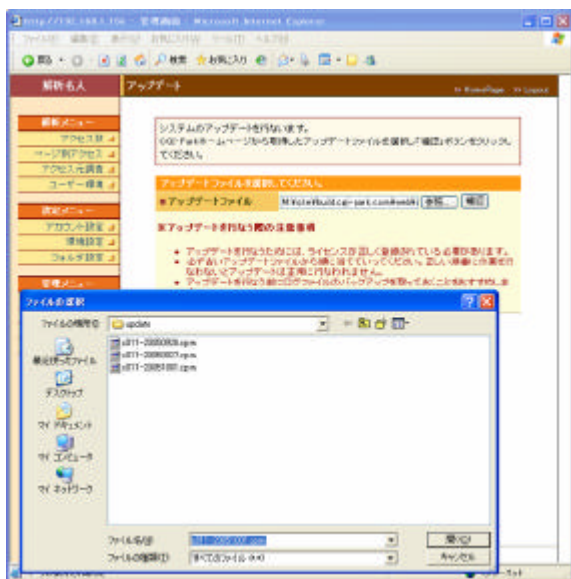


図1:アップデートファイルの選択

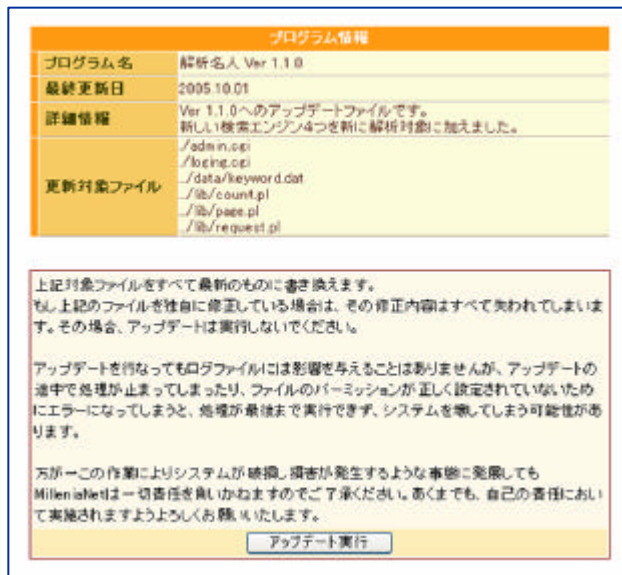


図2:アップデートファイルの確認

🔗 アップデート履歴の確認

アップデートを行なった日時や処理内容が履歴として保存されます。「システム情報」ページの作業履歴の項目のボタンをクリックすると今まで行なったアップデート作業等が表示されます。

6. その他の技術情報

6-5. システムの再構築

☞ **システムの再構築について**
 プログラムファイルやHTMLデザインファイル等が万が一破損して正しく処理が行えなくなってしまう場合、最後にアップデートを行ったときの状態にシステムを復元することが出来ます。

☞ **再構築を実行するうえでの注意事項**
 ・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、再構築を行なうことで、改造を施したファイルが元のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。

・再構築処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてから再構築を行なうことをおすすめします。
 万が一再構築により、システムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、再構築を実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

☞ **再構築を実行する**

1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、システム再構築の項目のボタンをクリックしてください。
2. 再構築の確認画面が表示されます。(図1)
 更新対象ファイルという項目で表示されているファイルが、再構築を実行するファイルの一覧です。もしこの中に更新したくないファイルが含まれている場合は、再構築は行わないでください。再構築を行なうことで、初期状態に戻ってしまいます。
3. 更新ファイルを確認し、再構築を行なってもよろしければ「再構築を実行」ボタンをクリックしてください。再構築の処理が開始されます。
4. 処理が完了すると、再構築の完了画面に切り替わります。これで、再構築処理が正常に終了しました。

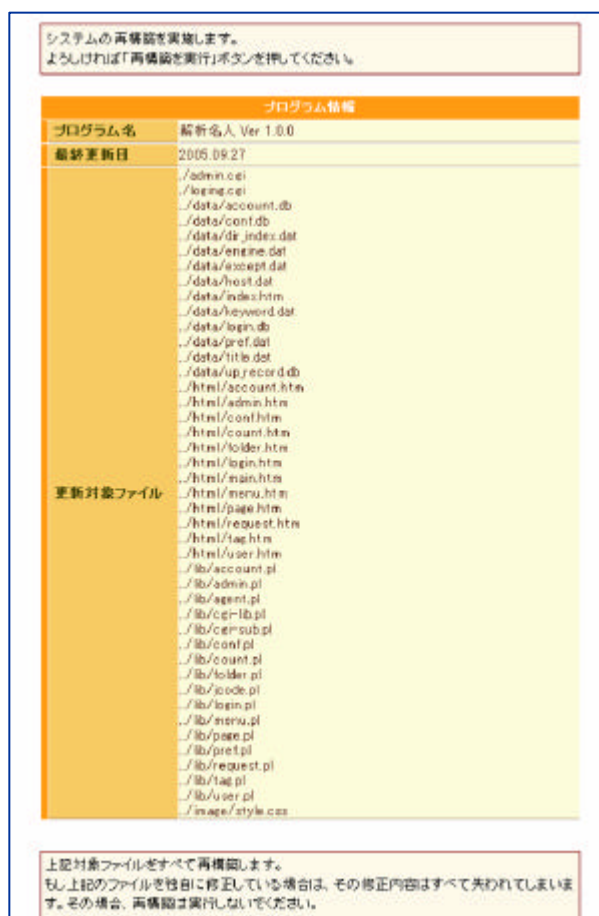


図1 再構築の確認画面